

安全・安心な市民生活の確保

取
方
り
組
み
の

<下水道施設の改築・修繕>

●下水道施設の老朽化による道路陥没や排水不良など、市民生活へ重大な影響を及ぼさないよう、維持修繕基準に基づき日常的な維持管理及び、計画的な下水道施設の点検・調査や改築・修繕などの老朽化対策を進めます。また、雨天時浸入水などを原因とする降雨時の汚水量増加の問題について、その対策に取り組めます。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
ポンプ場等施設修繕実施率 (%)						s	修繕対応施設数/ポンプ場等下水道施設数×100
管路調査点検実施率 (%)						a	調査点検の実施延長/ストックマネジメント計画(短期計画)の延長×100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	下水道施設の点検・調査結果等に応じた下水道ストックマネジメント計画を修正します。		○	○
2	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の修繕に取り組めます。		◎	○
3	下水道長寿命化計画およびストックマネジメント計画に基づく管路長寿命化事業に取り組めます。(汚水)		○	◎
4	下水道ストックマネジメント計画に基づく計画的な点検、調査に取り組めます。(汚水)		○	◎
5	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の計画的な改築に取り組めます。(汚水)		△	○
6	下水道施設の維持管理による機能維持と浸水の防除に取り組めます。		○	○
7	下水道ストックマネジメント計画に基づくポンプ場の改築・修繕に取り組めます。(雨水)		○	○

今後の方向性

--

安全・安心な市民生活の確保

取り組みの方向性

<下水道施設の耐震化>

●下地震時も下水道の機能が確保できるよう、被災による影響が大きい緊急輸送路などに埋設されている管渠や軌道・河川を横断している管渠及びポンプ場などの重要な施設から計画的に耐震化を進めます。

総合評価

A

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はAとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
ポンプ場の耐震化率 (%)						S	耐震化済ポンプ場/ポンプ場 (11 場) × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	下水道総合地震計画に基づく管路の耐震化を実施します。		○	◎
2	雨水ポンプ場の耐震化を実施します。		◎	○

今後の方向性

安全・安心な市民生活の確保

取り組みの方向性

<浸水被害の軽減>

●計画降雨に対応する雨水整備を進めるとともに、近年の気候変動等に伴う降雨の集中化・激甚化を要因とした内水の氾濫による浸水被害からまちを守るため、計画降雨を超える集中豪雨や局所的な浸水に対して、地域の特性を踏まえた浸水対策や雨水流出抑制施設の設置などを進めます。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
浸水地区の整備率 (%)						S	対策済地区数 / R10 対策予定地区数 × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	浸水対策地区の浸水対策を実施します。		◎	○
2	雨水貯留施設の確保に取り組みます。		○	○

今後の方向性

水環境の保全

取
方
向
組
み
の

<環境負荷の低減>

●本市の下水道は整備当初から汚水の処理と雨水の排除というそれぞれの目的に沿った分流式を採用しており、今後も、合流式よりも環境にやさしい分流式下水道により整備を行います。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
下水道処理人口普及率 (%)						S	処理人口 / 行政人口 × 100
生物化学的酸素要求量 (BOD)						S	環境基準点の平均値

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	分流式の下水道整備を進めます。		△	△

今後の方向性

水環境の保全

取
方
向
組
み
の

<適正処理の推進>

- 生活排水の適正処理を推進するため、水洗化義務期限内の水洗化に向けて取り組むとともに、期限を超過した家屋に対しては下水道の使用に向けた指導勧告を進めます。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
水洗化率 (%)						S	水洗化人口/処理人口×100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	水洗化の向上に取り組めます。		◎	○

今後の方向性

快適な生活環境の創造

取
方
向
組
み
の

<汚水整備>

●住居系地域の汚水整備は概成しましたが、引き続き市内に点在する未整備地区について汚水の整備を進めていくことにより、公衆衛生を向上させ、快適な生活環境を創造します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
下水道整備人口普及率 (%)						S	整備人口 / 行政人口 × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	分流式の下水道整備を進めます。		◎	○

今後の方向性

快適な生活環境の創造

取
方
向
組
み
の

<雨水整備>

●人命や財産を守り、交通などの都市機能を確保するため、計画降雨に対応する雨水整備を進め、安心して生活できる環境を創造します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
主要な幹線管渠の整備率 (%)						S	整備延長/計画延長 × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	下水道計画に基づく雨水整備を進めます。		◎	○

今後の方向性

下水道事業を持続するための基盤づくり

取
方
向
組
み
の
指
標

<財政基盤の強化>

- 下水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。
- 将来の使用水量の減少を見据えた使用料体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく使用料制度の構築に向けた見直しを定期的を実施します。
- 下水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが下水道使用料に与える影響を考慮し、判断していきます。
- 汚水事業の新規整備にあたっては、事業効果を含めて慎重に判断しながら実施します。
- 下水処理水の再利用については、事業手法や費用対効果も含めて検討し、事業のあり方を見直します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
企業債残高対使用料収益						S	企業債残高（公的負担分除く）／下水道使用料

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	企業債発行額を抑制します。		◎	○
2	国等の補助制度の活用に取り組みます。		◎	○
3	R6 年度の総括原価の算定に向けた社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備に取り組みます。		◎	○
4	下水道使用料改正の必要性についての円滑な検討に向けた調定水量や調定金額に関する推移のモニタリングを実施します。		◎	○
5	総括原価の算定を基にした下水道使用料改正についての検討に取り組みます。		◎	○
6	汚水の新規整備については、新たな技術も検証し、事業効果を含めた慎重な検討をしながら取り組みます。		◎	○

今後の方向性

下水道事業を持続するための基盤づくり

取
方
向
組
み
の

< 運営基盤の強化 >

- 維持管理の時代に適した人（人材）・モノ（施設）・カネ（財源）が一体となったアセットマネジメントや、適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方の下、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントなどを確立していきます。
- 今までの考え方や取り組みにとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。
- 人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。
- 公民連携、広域化・共同化などの新たな手法に取り組みます。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
—							

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、組織の再編を行います。		◎	○
2	経営戦略の見直しの検討を行います。		◎	○
3	各種下水道計画の見直しを検討します。		◎	○
4	危機管理体制を強化します。		◎	○
5	適正な予算編成と執行管理を行います。		◎	○
6	下水道使用料等の債権の徴収強化を行います。		◎	○
7	保有資産の有効活用に取り組みます。		◎	○
8	雨水ポンプ場における運転、維持管理業務の民間委託拡充に向けた検証を行います。		◎	○
9	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。		◎	○

10	公民連携の新たな手法に取り組めます。		◎	○
----	--------------------	--	---	---

今後の方向性

下水道事業を持続するための基盤づくり

取
方
向
組
み
の
性
の

<積極的な広報活動>

●下水道に関する取り組みや経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組みます。

総合評価

S

評価理由

具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
—							

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	下水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、HP、SNS、出前講座等）を実施します。		◎	○

今後の方向性

下水道事業を持続するための基盤づくり

取
方
向
組
み
の

<環境対策と社会目標の実現>

- 「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」などの社会目標の実現に向けて、下水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
建設副産物リサイクル率 (%)						s	リサイクル材料利用量／材料使用量×100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	下水道事業の ICT 化に向けた検証をします。		◎	○
2	建設副産物等の再生資源として有効利用します。		◎	○
3	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組めます。		◎	○
4	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。		◎	○

今後の方向性